



バハールのオーナーが遊牧民の居住地で買い付けてきたギャッベ。すべて手織りで1枚と同じものがない



上:材料は保温・吸湿に優れた遊牧民が飼うヒツジの毛。必要な材料や道具は教室で用意してくれる／中:柄は好きなようにデザインできる。織り機の前に図案を置いている受講生も／下:文様にはそれぞれ意味があり、たとえばヤギやヒツジには子孫繁栄の思いが込められている

日本で発見!

もっと地球ギャラリー

遊牧民の伝統織物 「ギャッベ」織り教室

写真●金子麻也 文●大谷徹(編集部)

イランの西側をペルシャ湾に沿って走るザクロ山脈では、ロル族やカシュガイ族などの人々が遊牧生活を営んできた。激しい寒暖差の中、テントで寝泊まりする彼らは、代々「ギャッベ」と呼ばれる温かい絨毯を織り続けている。

東京・西荻窪でペルシャ絨毯の輸入販売を手がける「バハール」は毎週2回、ギャッベ織りの教室を開いており、伝統的な手紡ぎの糸と織り機で、自分だけの1枚を織ることができる。始めは鍋敷きサイズから、慣れてくれば玄関マット大のギャッベ作りにも挑戦させてもらえる。

太く紡がれたパイルのふかふかとした手触りに、草木染めの優しい風合い、自然や部族の文様を織り込んだ人間味のあるデザインなど、ギャッベの魅力は、見て、触れるだけでも感じられる。さらに、それを自ら織ることには、体験した人しか分からない充実感があるのだ。

一本一本のパイルを縦糸に結び1枚の絨毯に仕上げていくのは、根気のいる作業だ。黙々と手を動かしていた受講生に話を聞くと「やってみると無心になって、とても心地いいんですよ」と笑顔とともに語ってくれた。

バハール (Bahar)

東京都杉並区西荻北4-8-13
営業時間:11:00~19:30(水曜定休)
TEL:03-3399-5944
<https://www.bahar.jp>
*教室の詳細はホームページ、または電話でお問い合わせください

